



＜田植え＞ 水田圃場整備事業の工事のため、従来行ってきた水田が使えなくなり、子どもたちにも不安がありました。しかし、5、6年生20名程度の人数で稲作を行うにはちょうど良い規模の水田を借りることができよかったです。定盤での線引きは、足元を気にしながらの作業で、収穫までの稲の場所を決める大切な仕事で、収量にも影響するので子どもたちは慎重に行いました。農業機械がない時代に、広い水田をぬかるみながら作業をしていた昔の人の苦労をほんの少しでも知ることができたようです。



＜稲刈り＞ 5・6年生の「米作り」は、大規模な圃場整備事業による工事のため、田んぼの場所や規模、周りの田んぼの様子が変わりました。不安はあったものの、今年も順調に生育し、たくさん米を収穫することができました。農業科支援員さんから、刈った稲を使って稲束を結ぶやり方を教えてもらいました。稲をひねるところや、稲束の隙間に結ぶための稲をねじ込むところが難しく、束がばらけてしまうこともありました。ひもや縄を使わずに、自分たちが育てた稲を使って縛る昔の人の知恵や技に改めて感心していました。自給自足やエコの考えにつながっていることも学びました。



＜いも掘り＞ 今年は、水田同様、圃場整備事業の工事で畑の場所が変わりました。品種は「ベニアズマ」です。昨年度、支援員さんからお薦めの品種「ことぶき」を育て、「ベニアズマ」との食感の違いを比べることができましたが、今年度は「ことぶき」の苗の生育が遅かったため、「ベニアズマ」だけを育てました。収穫祭でカレーライスに入れたり、ふかしいもで出したりできるように、心を込めて植え付けしました。たくさん収穫することができ、家庭に持ち帰り、家族と穫れたてのイモを味わいながら楽しい食卓を囲むことができたようです。



＜収穫祭＞ 今年は、圃場整備事業の工事のため、水田の場所が変わり不安もありましたが、農業科支援員の方々の指導のおかげで従来通りに収穫することができました。5・6年生が育てた新米、5年生が育てたニンジン、6年生が育てたジャガイモで「カレーライス」を作って農業科支援員さんや駒形地区の見守り隊の方々、学校評議員の方々にも食べていただき、喜んでもらえました。5・6年生が頑張って育てたお米が「ごちそう」であることを改めて実感できました。「ご飯をおかずにご飯を食べる」というどこかで聞いたフレーズが思わず口にのどるほどのおいしさでした。来年度の収穫祭も楽しみです。